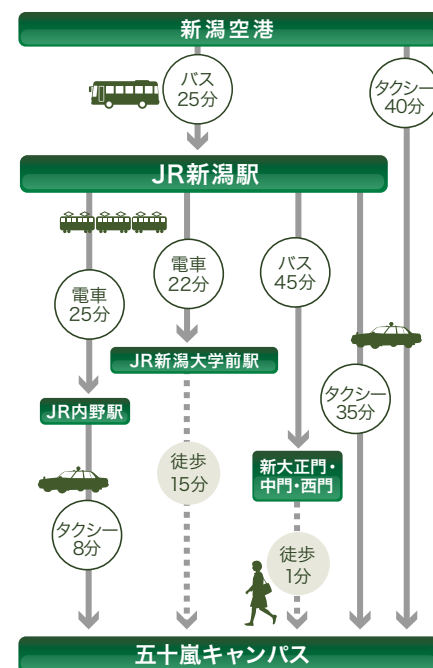


新潟大学農学部へのアクセス



〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

●学務係

TEL (025)-262-6605

E-mail nougaku@agr.niigata-u.ac.jp



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

Faculty of Agriculture
Niigata University 2025

新潟大学農学部

2025年度 学部案内



● 応用生命科学プログラム
Applied Life Science Program

● 食品科学プログラム
Food Science Program

● 生物資源科学プログラム
Program of Agriculture and Bioresources

● 流域環境学プログラム
Program of Environmental Science for Agriculture and Forestry

● フィールド科学人材育成プログラム
Program of Field Research in the Environmental Sciences



新潟大学農学部 2025 年度 学部案内

学部長あいさつ 01

新潟から世界へ 02

学位プログラム

応用生命科学プログラム 03

食品科学プログラム 05

生物資源科学プログラム 07

流域環境学プログラム 09

フィールド科学人材育成プログラム 11

フィールド科学教育研究センター 13

入試情報 14

アクセス 15

学部長あいさつ

農学は「生命」・「食料」・「環境」を支える総合科学です。

農学は、農林水産業の基盤としての学問であるのはもちろんですが、人類社会に深く関わる「生命」・「食料」・「環境」を支える総合科学としても重要です。今日、人類が直面している人口、食料、環境、エネルギー等に関わる諸問題は、総合科学としての農学分野が中心となって取り組むべき課題と言えます。その際には、理学、工学、医学、社会科学等のあらゆる分野との連携・融合も必要になってきます。農学は今、最も注目を集める学問分野の一つと言っても過言ではありません。

新潟大学農学部は、「食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、我が国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材の育成」を教育目標として、地域、国内および国際社会で活躍する多くの農学系人材を送り出してきました。本学部は、これまでの教育研究の豊富な実績を踏まえつつ、地域と社会が求める多様なニーズに柔軟に対応できるように、2017 年 4 月から 1 学科 5 プログラムの新たな体制で教育研究をスタートさせました。新たな体制では、新潟の代表的な産業である食品分野の教育研究と人材育成を強化するとともに、理学部との学部横断型プログラムを新設する等、農学分野の教育研究の柱である「生命」・「食料」・「環境」の教育研究をさらに充実させました。具体的には、農林畜産物の生産・加工・流通、生命現象の解明に基づく最新のバイオテクノロジー、生物機能の開発と応用、食品の機能性や新たな加工技術、地域および地球環境の理解と保全、野生動植物の生態と保護等に関する幅広い、そして先端的・実践的な教育研究を展開しています。

新潟大学農学部では、インターンシップを軸とした就業力育成科目を 4 年間のカリキュラムに段階的に組み込んでいます。このような就業力育成プログラムの効果もあり、卒業生の就職率は毎年高く、就職を希望する学生のほとんどが就職できている状況にあります。また、本学部は国際交流やグローバル人材の育成にも力を入れています。アジア諸国はもちろんのこと、遠くロシアやトルコ等からも留学生を受け入れるとともに、それらの国々の協定校への学生派遣も行っています。その際には、学生支援機構の奨学金等の支援制度を活用し、留学を希望する学生が少ない自己負担で海外へ派遣されています。

新潟は佐渡島を含め、山から平野、そして海に至る豊かな自然環境に恵まれており、多様な動植物を見ることができます。また、コシヒカリに代表される美味しいお米や、さまざまな農産物を産出する日本有数の食料生産地帯であり、1,000 社を超える食品関連産業が集積する我が国有数の「食づくり」地域です。米どころ新潟を支えるための分水路や排水機場等、大規模な治水工事の成果も目にすることができます。また、新潟は雪崩や地滑りの多発地帯であり、その防災・減災技術も進んでいます。このような農学を学ぶ上で恵まれた環境にあることを生かし、新潟大学農学部は、総合科学である農学の諸分野の基礎から応用に至る幅広い教育研究、新潟の地域性を生かした特色ある、そして先端的な教育研究を推進し、毎年多くの有為な人材を輩出しています。



新潟大学 農学部長
西海 理之

農学部は、21 世紀における「持続的な農業の発展と環境の保全」を目指し、総合的な教育研究を弾力的に推進・発展させるため、以下のような目標を掲げています。

1. 生物生産産業の発展、自然環境との共生に向けて、最新のバイオテクノロジーや情報科学等の科学技術を導入しつつ、多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る教育・研究体制の確立
2. 地域農業の生産性の向上や農林業を基幹とした農山村の振興等に貢献する教育研究
3. 国際的な視野を持ち基礎科学と応用技術を活用できる人材の養成
4. 学際的な研究の活性化および地域貢献型プロジェクト研究の推進

新潟から世界へ

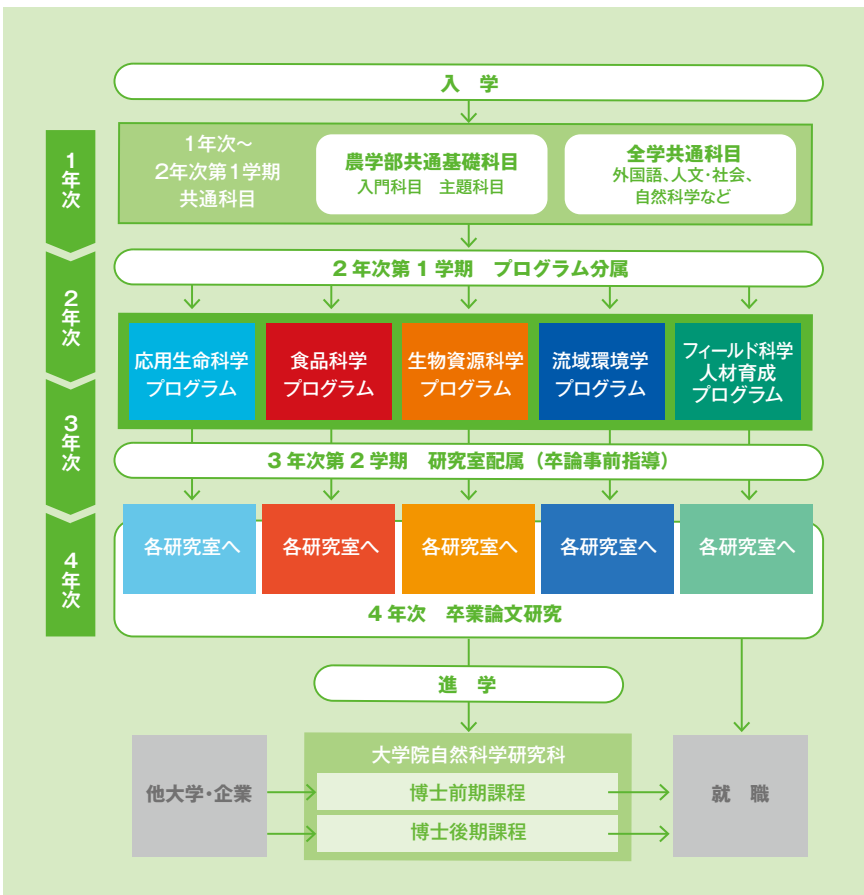
新潟大学農学部では、農学科の中に 5 つの学位プログラム「応用生命科学プログラム」・「食品科学プログラム」・「生物資源科学プログラム」・「流域環境学プログラム」・「フィールド科学人材育成プログラム」を設けて専門的な教育を行い、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力・リーダーシップ力・高い倫理観をあわせ持ち、我が国のみならず広く世界で活躍できる人材を養成します。

入学後、専門教育を受けるために必要な語学、自然系共通専門基礎、情報リテラシー等の基礎科目、幅広い知識を身につけるための人文社会・教育科学、自然科学等に関する教養科目を履修します。同時に、農学に関わる基本的知識を修得するために「農学入門」等の農学部共通基礎科目や「地域交流サテライト実習」等の就業力育成科目を受講します。

その後、2 年次第 1 学期から 5 つの学位プログラムに分かれ、各分野における専門的な教育を受けます。学位プログラムには、食品分野に関する教育研究に特化した「食品科学プログラム」、農学分野の教育研究の柱である「生命」・「食料」・「環境」に明確に対応した「応用生命科学プログラム」・「生物資源科学プログラム」・「流域環境学プログラム」、環境保全や災害・復興対策等の諸問題を解決できる実践力を備えた人材の育成を目的として理学部と連携した「フィールド科学人材育成プログラム」があります。なお、分属先は、本人の志望と成績により決定します。さらに、3 年次第 2 学期以降、卒業論文指導予定教員を決定し、4 年次の 1 年間卒業論文研究を行います。



入学後のスケジュール





実践的技術を学ぶ科目

- 有機化学実験
- 分析化学実験
- 生物化学実験
- 生物学実験
- 微生物学実験

特色ある授業科目

専門基礎科目

- 有機化学
- 分析化学
- 生物化学
- 微生物学
- 土壌学概論

応用および実用的知識を学ぶ科目

- 醸造学
- 肥料学
- 遺伝子工学
- 化粧品科学
- 植物栄養生理学
- 機器分析学

アドミッションポリシー

化学と生物学を基盤とした最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノムサイエンス等、微生物・植物・動物の生命現象とその応用に関する高度な専門知識と実験技術の修得に強い関心のある人を歓迎します！

応用生命科学プログラム
Applied Life Science Program




分析化学実験 実験風景

先端機器を使用した研究風景

取得可能な資格

■高等学校教諭一種免許状（農業）
■食品衛生管理者（※1）任用資格
■食品衛生監視員（※2）任用資格
■危険物取扱者甲種（※3）受験資格
（※1）食品製造に関わる事業所、（※2）食品衛生に関する業務を行う検疫所（厚生労働省）・保健所（各自治体）・技術系公務員、
（※3）研究所・化学工場・貯蔵施設で必要とされる資格です。

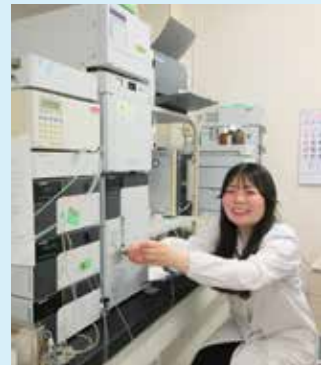
卒業後の進路

一般企業：フナコシ、高砂香料、塩野香料、ツムラ、富士薬品、ニプロファーマ、コスモ

ビューティー、岩瀬コスファ、関東化学、クラレ、マツモト交商、カネカ、カネコ種苗、愛三種苗、キュービー、マルハニチロ、日本ハム、理研ビタミン、八海醸造、朝日酒造、山崎製パン、ソントン食品工業、ニッポン、昭和産業、リファインバースグループ、亀田製菓、佐藤食品、ブルボン、日東ベスト、一正蒲鉾、タケショー、新潟県農業共済組合、三幸製菓 等
公務員：農研機構、国土交通省、農林水産省、検疫所、警察庁、新潟県、群馬県、福島県、宮城県、山形県、富山県、新潟市、横浜市 等
大学教員：新潟大学、茨城大学、東京農工大学、秋田県立大学、石川県立大学 等

先輩からのメッセージ

応用生命科学プログラムでは、生物、化学の幅広い分野を学ぶことができます。また、講義だけではなく、学生実験のように実践的に学ぶ機会が用意されています。研究室配属後も、専門科目や学生実験で学んだことを実際に自分の研究に活用できているという実感があります。現在、植物資源化学研究室で樹皮リグニンの構造と機能について研究を行っています。研究は大変なこともあります、やりがいを感じられてとても充実した研究生活を送ることができています。ぜひ一緒に本プログラムで学びましょう！



新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程1年
吉田 紗由季

基礎から応用、実用まで生命科学を幅広く学べます！

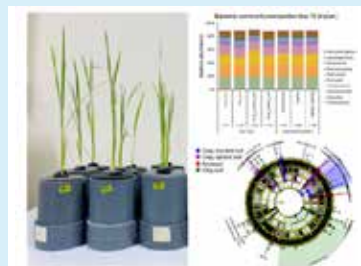
プログラムの特色

応用生命科学とは、微生物、植物、動物等を研究対象として、遺伝子、タンパク質、生理活性物質等、生体分子および細胞の構造／機能、生物のしくみについて先端機器を使った高度な化学分析やバイオテクノロジー、ゲノムサイエンスの手法を駆使した研究を行い、これを応用して新しい機能物質の生産や生物機能の改変を行う学問です。確かな分析能力、高度な解析技術および論理的な思考を鍛える事により、現代的諸問題を科学的手法により解決する能力を涵養します。また、実践的科目群により専門的な情報収集・プレゼンテーションのスキルを修得します。農林畜産物の生産利用・食品・環境・農業・医薬品等について、日常生活に関連の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育等に携わる人材を養成します。

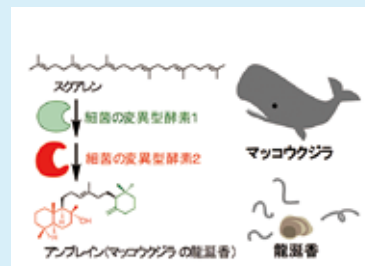
特色ある研究



遺伝子組換えによる葉色の改変



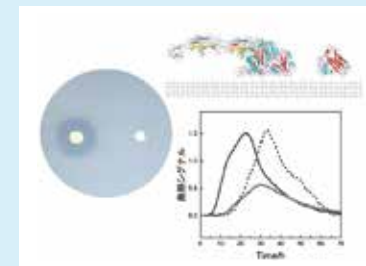
環境 DNA を利用した植物・微生物間相互作用の解明



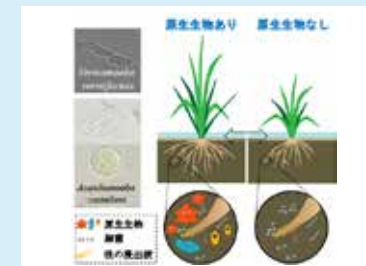
新規・希少生理活性物質の探索、生合成による創出および生物合成



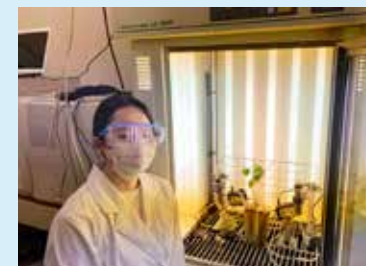
植物バイオマスのバイオリファイナリーによるファインケミカルの創製



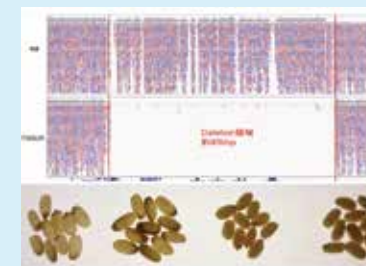
遺伝子から細胞レベルの解析で明らかにする、細菌がキチンを分解する仕組み



イネにおける捕食性原生生物の影響



環境要因がダイズの窒素固定活性に及ぼす影響をリアルタイムに解析



代謝工学による新奇物性を持つデンプンの開発

私は植物に関する研究がしたいという思いから応用生命科学プログラムを選択しました。プログラムの専門科目や学生実験では研究者として必要となる知識・技術を学ぶことができます。土壌学研究室に所属後は、イネの内生菌群集がどう形成され、次世代の種子に受け継がれるのかを研究しています。研究に関連する論文を参考にし、研究計画を立てて実験を進めています。先生方や先輩方にサポートしていただきながら、日々成長を実感し、自分のやりたいことを実現できています。みなさんも本プログラムで充実した研究生活を過ごしてみませんか。



農学部4年
廣瀬 穂乃香

専門基礎科目

- 食品化学
- 食品工学
- 食品安全学
- 食品機能学

専門科目

- 栄養生化学
- 畜産食品製造学
- 醸造学
- 食品・農業情報工学

特色ある授業科目

実験・実習科目

- 分析化学実験
- 生物化学実験
- 有機化学実験
- 食品科学プログラム
実地見学

アドミッションポリシー

現代の食品に求められる栄養価、美味しさ、健康増進作用等多様な機能を理解できる化学や生物の基礎学力を持ち、食品成分の化学的基礎から食品の開発・製造・販売まで食に関する幅広い分野に強い関心のある人を歓迎します！

食品科学プログラム

Food Science Program

実地見学で食の安全管理を学ぶ

美味しさの評価

無菌操作（細胞培養実験）

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
- 食品衛生管理者（※1）任用資格
- 食品衛生監視員（※2）任用資格
- 危険物取扱者甲種（※3）受験資格
- （※1）食品製造に関わる事業所、（※2）食品衛生に関する業務を行う検疫所（厚生労働省）・保健所（各自治体）・技術系公務員、（※3）研究所・化学工場・貯蔵施設で必要とされる資格です。

卒業後の進路

一般企業：朝日酒造、越後製菓、亀田製菓、キュービー、サトウ食品、昭和産業、タカナシ乳業、タケショー、塚田牛乳、東洋水産、

日清製粉グループ本社、日本製粉、日本ハムファクトリー、ハウス食品、ブルボン、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、山崎製パン、理研ビタミン 等
法人・団体：農業・食品産業技術総合研究機構、全国農業協同組合連合会、日本食肉格付協会 等
公務員：検疫所（厚生労働省）、新潟県、青森県、秋田県、東京都、福島県、山形県、新潟市、仙台市、長野市、横浜市等
大学院：新潟大学、東京大学、お茶の水女子大学、東京農工大学 等
 （前身の応用生物化学科食品・栄養科学コース、大学院博士前期課程修了者も含む）

先輩からのメッセージ

私は「食を食べること」が好きだったため、入学前から憧れていた食品科学プログラムを選択しました。このプログラムでは食品の美味しさ、機能性、加工など食に関するあらゆる基礎知識を学び、学生実験では後の研究に必要とされる実験スキルを習得できます。私が所属する食品化学研究室では、健康に良い食品成分について研究しており、仲間と高め合いながら充実した日々を過ごしています。このプログラムは“食”の魅力を知ることができる最高の場所です！美味し



いものが溢れる新潟で“食”について学んでみませんか？

新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程2年
市川 日奈子

充実した講義、実験・実習により「食の専門家」を育てます！

もっと知りたいときは >>

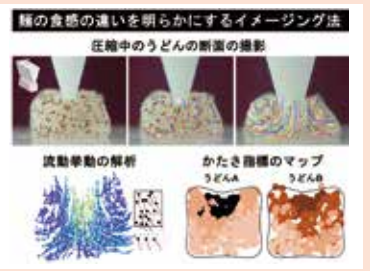
<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/shokuhin-kagaku>



プログラムの特色

1,000社を超える食品関連企業を有する新潟は、食品産業が非常に盛んです。新潟大学は食品研究機関や企業等との連携が活発で、見学、インターンシップ、技術者による講義の機会が充実！「食品」の栄養価、化学的特性、美味しさや健康、その評価法に関する基礎を学びます。また、他学部や公的機関、民間企業との共同研究や交流が活発です。充実した講義科目に加えて、実験・実習、卒業研究等で高度な技術や考え方が身につくため、卒業生の評価が高いのが特徴です。

特色ある研究



食感の新たな計測法の開発



機能性糖質の創生



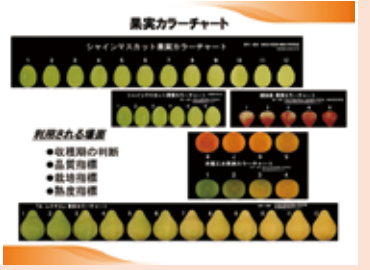
おにぎりの安全性に関する研究



酵素反応速度解析プログラムの開発



高圧食品加工技術の開発



食品・農産物の外観品質評価のための果実カラーチャート



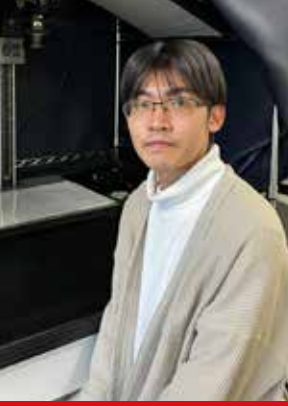
美味しさを形成する化学成分の評価と品質向上



麹菌や乳酸菌を利用した機能性食品の開発

私は、ICT 利活用による高品質な果物生産に関する研究をしています。農業者の高齢化や労働力不足などの問題を抱えた農業では、ICTの利活用で効率的かつ高品質な農産物の生産が求められており、研究室で議論を行いながら充実した研究生生活を送っています。食品科学プログラムでは、「食の専門家」となるために食品に関する幅広い学問を学ぶことができるため、「食」に興味がある人には有意義なプログラムだと思います。皆さんも本プログラムで「食」について学びませんか？

農学部4年
富澤 颯也





食料・資源経済学分野

食料資源経済学
国際フードシステム論
農業経営学
農産物流通論

植物資源科学分野

作物学
果樹・蔬菜園芸学
植物遺伝学
植物病理学

動物資源科学分野

動物解剖生理学
動物遺伝学
動物発生生殖学
草地生態学

特色ある
授業科目



アドミッションポリシー

動植物の遺伝子から個体を取り巻く環境までを理解し、生物資源の利活用におけるバイオテクノロジーや先進的技術の開発と応用に挑戦する意思を持ち、さらに国際的視点を持ちながら食料生産や農山村地域の持続的発展に強い関心のある人を歓迎します！



生物資源科学プログラム

Program of Agriculture and Bioresources

3つの分野で幅広く学べます！

プログラムの特色

農畜産物の新しい品種の開発・試験から、生産・普及、流通・加工、消費・循環に至るフードシステムの広大なフィールドを使って、土・稲・畑作物・産業動物等の生物資源の開発や利活用に関する先端的で幅広い知識を学べます。実際に農場を研究の舞台とし、室内のラボだけでは得られない本当の農業を幅広く体験できます！

国際的な視点をもちつつ、全国有数の農業県である新潟の農村に仲間と出かけ、現場の人たちと共に地域の悩みを考えることは、日本や世界の農業農村の持続的発展の方策や食料資源問題の解決策を科学的に考える第一歩となります。

花や果物、野菜、穀物、動物、ウイルスまで、多くの生命現象について学べます。動植物が持つユニークな特徴を明らかにすることは大変ですが、努力の末に得られた成果は大きな喜びをもたらします。

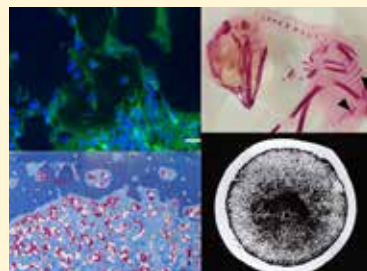
特色ある研究



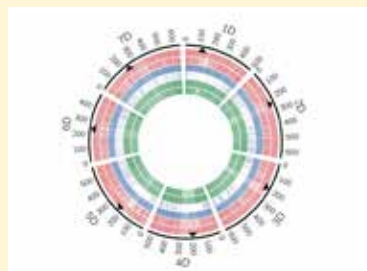
持続可能な農業・農村開発に関する研究（上海市の大規模有機・観光農場の様子）



農業・農村の労働市場問題に関する研究（集落・農家調査の様子）



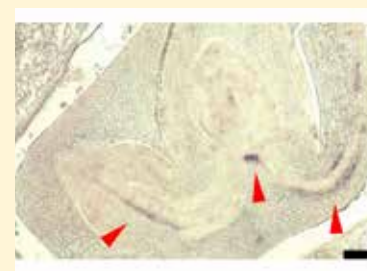
動物の骨代謝に関する研究



ビッグデータをもとにした生命情報解析



フィールドでの作物栽培



作物の遺伝子に着目した研究



生殖技術を利用した遺伝子改変マウスの作製



ゲノム解析によるトキ野生復帰に関する研究

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
- 家畜人工授精師（牛）

卒業後の進路

一般企業：アクシアルリテイニング、朝日工業、井関農機、越後製菓、NTTビジネスソリューションズ、カネコ種苗、兼松新東亜食品、興和、コカ・コーラボトラーズジャパン、サカタのタネ、佐藤食品工業、正田醤油、第四北越FG、富山中央青果、新潟クボタ、日本アイ・ピー・エムデジタルサービス、日本臓器製薬、日本農産工業、日本ハム、ハルナビバレッジ、ブルボン、ヤンマーアグリジャ

パン、雪国まいたけ、横浜冷凍

団体・組合：家畜改良センター、JAグループ（全国、県域、単協、関連組織）、土地改良区、日本食肉格付協会、日本草地畜産種子協会、農研機構、農業共済組合

公務員等（農業職・行政職・教員等）：秋田県、岩手県、沖縄県、金沢市、群馬県、国土交通省、総務省、東京都、栃木県、富山県、長岡市、新潟県、新潟市、農林水産省、福島県、山形県

大学院：岡山大学、沖縄大学、神戸大学、東京農工大学、東北大学、奈良先端科学技術大学、新潟大学、広島大学（前身の農業生産科学科の例、修士修了者も含む）

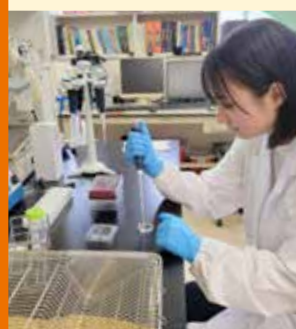
先輩からのメッセージ

生物資源科学プログラムは、植物・動物・経済分野の中から専門的に学ぶことができます。私は経済分野に所属し、有機米の流通にかかわる研究を行っています。4年生から本格的な卒業研究が始まりますが、3年生までは座学や新通・村松ステーションでの実習を通して農業を幅広く学びながら、自分の興味関心のある分野を見つけていきます。大変なことも多いかと思いますが、私は新しい知識を学び、経験を積みながら自身の成長を感じられていることがすごく楽しいです。皆さんも生物資源科学プログラムで学んでみませんか。

農学部 4年
国本 晃



生物資源科学プログラムには植物、動物、経済の3つの分野があるため、様々な視点から農業を学ぶことができます。実習も活発で、私が所属する動物分野では実際に家畜動物を用いた演習や実験を行うことができます。私は現在、家畜繁殖学研究室で卵母細胞の減数分裂に着目した生殖機能の研究を行っています。研究室では自分たちでマウスを飼育したり、アカネズミを捕獲したりして実験を進めています。研究室の仲間と議論しながら興味のある動物の生命現象を研究する日々はと



ても充実しています。ぜひ生物資源科学プログラムと一緒に研究しましょう。

農学部 4年
小林 みずほ



持続的森林管理と生態系保全

フォレスター入門
林木育種学
森林保護学
森林再生学

特色ある
授業科目

情報ネットワーク の活用

食料環境工学
精密農業工学
食品・農業情報工学
バイオマスエネルギー論

食料生産の 基盤整備

農環境デザイン入門
農地と水利用
土壌工学
環境材料工学



アドミッションポリシー

河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を対象とし、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動に強い関心のある人を歓迎します！



流域環境学プログラム

Program of Environmental Science for Agriculture and Forestry

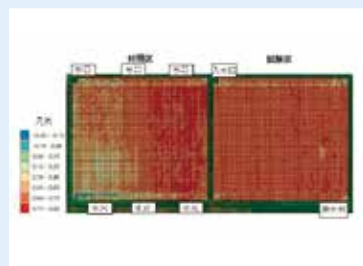
一次産業と関連分野をそっと支える分野を学びます！

プログラムの特色

人と自然の共生を考えることができる、「縁の下力持ち」になろう。その「力」は、河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を「人の生活」と「資源の循環」の大きなまとまりとしてとらえ、地域の自然環境と調和した持続的な農林業を可能にする力。そのために、持続的な森林管理と生態系の保全、食料生産の基盤整備、および情報ネットワークの活用に関する幅広い専門知識と技術を学修します。



特色ある研究



作物生育指標（NDVI）を用いて空から大豆の成長を診る



土砂災害とその防止に関する研究



河川の水生昆虫と森林とのかかわりの研究



田んぼダムによる洪水対策の研究



農業用ダムの機能診断に関する研究



解析に使用する現地での森林調査



花粉の出ない無花粉スギの研究



山古志の心にふれる研究

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/ryuiki-kankyau>



林業現場の見学



土の強さを調べる実験



中越地震の被災集落で行事体験

先輩からのメッセージ

流域環境学プログラムでは、森林地帯、中山間地、平野部と広大なフィールドを対象としていることから、幅広い知識と技術を学ぶことが魅力です。例えば森林管理や生態系保全に関する授業もあれば、リモートセンシング、精密農業についても学ぶことができます。私は農業工学の中でも食品の非破壊計測に興味を持ち、現在は大豆や豆腐の非接触計測に関わる研究を行っています。実験や研究室メンバー・先生との議論を重ね、自分の取り組んでいる研究が実際の現場に役立つ瞬間を感じると、とてもやりがいを感じます。ぜひ、流域環境学プログラムと一緒に学んでいきましょう。



新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程1年
宮川 璃空

このプログラムでは、「流域」という広いフィールドを対象としています。授業は野外での調査が多く、自分の目で見て、体を動かしながら実習を行うので、新しい発見や学びがあったときの感動がとても大きいです。また、実習では班員と協力して作業を行うので、学生同士の仲が深まりやすいのも魅力の一つだと思います。流域環境学は人が自然の恵みを利用しながら、次世代まで豊かな自然を守っていくために欠かせない学問だと思います。ぜひ、皆さんも流域環境プログラムで自然と人の共生について一緒に学びましょう。



農学部4年
渡部 春菜



生態学に関連した科目

野生植物生態学
野生動物生態学
里地里山再生学
希少生物保全学

特色ある授業科目

災害科学に関連した科目

環境砂防学
雪氷防災学
斜面災害論
河川工学

環境動態に関連した科目

古環境学
気象解析実習
海洋化学
寒冷地形学



アドミッションポリシー

野生動植物の生態や保全、自然環境に配慮した防災・減災対策・災害復興、生態系や自然災害に関わりの深い環境の動態に関する知識や技術の修得と、多様なフィールドでの実践活動に強い関心のある人を歓迎します！



フィールド科学人材育成プログラム

Program of Field Research in the Environmental Sciences

多彩なフィールド科学分野の講義・実習科目を学べます！



野生動植物の生態を体験的に理解する



地質調査法、地形調査法を学ぶ



防災施設の設計技術を学ぶ

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
- 自然再生士補
- 森林情報士2級
- GIS学術士
- 樹木医補



卒業後の進路

一般企業：環境・建設・水産コンサルタント、環境アセスメント、グリーンインフラ関連技術者、航測関係企業、造園・緑化関係企業、自然保護NPO、報道機関、エコツアーガイド、山岳ガイド、学芸員（博物館・植物園）等
公務員：国土地理院、防災科学研究所、国際協力機構（JICA）、環境省、国土交通省、気象庁、水産庁、林野庁、農林水産省、新潟県、山形県、石川県、栃木県、新潟市 等
大学院：新潟大学、東京大学、京都大学、東京農工大学、九州大学、千葉大学、東北大学、北海道大学 等
（前身の農学部生産環境科学科、理学部自然環境科学科の例、修士修了者も含む）

先輩からのメッセージ

こんにちは！このプログラムは農学部と理学部の学部横断型であるため、自然環境について幅広く学べることが特徴です。講義も座学だけでなく、野外実習も多く用意されているため、自然環境について様々な体験を通して学ぶことができます。また、私は生態学に興味がありましたが、このプログラムに進んでから気象学や災害科学などの魅力も知ることができ、視野が広がったと感じています。そのため今は何に興味があるか分からないけれど、自然は好きという方にもおすすめです。みなさんと会えることを楽しみにしています！

新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程1年
坂本 隼盛



このプログラムは、植物、動物、山、川、海、気象…、自然界の様々なものに対して、農業、防災、環境保全といった様々なアプローチから学ぶことが出来る、自由度の高いプログラムです。座学だけでなく、豊富な実習の機会があることが大きな魅力です。自然環境に興味のあった私にとって、ここでの学びは本当に楽しく、このプログラムを選んで良かったと心から思います。現在は理学部の山岳環境研究室に所属し、飛騨山脈にある氷河を研究しています。地形、地質、気象、防災、リモートセンシングなど、様々な事柄を扱った研究ができ、とても充実した日々を送っています。



農学部4年
竹花 佑香子

プログラムの特色

理学部と農学部の教員が協働で講義や実習を担当する学部横断型プログラムです。理学分野における基礎科学的な講義・実習と、農学分野における応用科学的な講義・実習を同時に学べます。豊富な科目群の学修やフィールドでの実習体験を通して、野外の様々な場面での問題解決に必要な科学的知識と実践的な技術を身につけます。佐渡自然共生科学センター、災害・復興科学研究所との協働体制をとることで、生物や環境の長期調査・モニタリングを実施できる機会を提供し、より実践的な研究を行います。



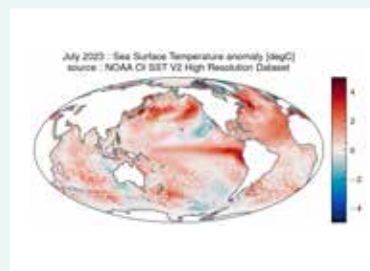
特色ある研究



希少生物の保全と生態に関する研究



陸域生態系における温室効果ガス動態の解明



異常気象・海洋現象のメカニズムの探究



地質調査自動化に向けた研究



里地里山の自然再生に関する研究



森林を構成する植物の遺伝的特徴の解明



山岳地域で発生している現象の解明



激化しつつある土砂災害の被害軽減に関する研究

フィールド科学教育研究センター

実践的農学教育・研究・地域連携の最前線でありたい！

2001年に従来の附属農場および附属演習林が統合され、企画交流部・耕地生産部・森林生態部の3部体制でフィールド科学教育研究センターが設立されました。これは「食料問題」および「環境保全」という今世紀最大の課題が、これまでの細分化された個々の学問領域では対処しきれないことから、新しい総合的視野に立つ「フィールド科学」の構築を目指したものです。

2019年度より、森林生態部が佐渡自然共生科学センターへ統合されたことに伴い、当センターは企画交流部および耕地生産部の2部体制で再スタートを切りました。2021年度より部の名称を担当に変更し、今後も、学部教員と緊密に連携して農業・環境問題に取り組んでいきます。

企画交流担当

農業生産と環境保全に関する教育・研究を推進するために、総合的なプログラムおよびプロジェクトを企画調整しています。特に、地域特有の農業・環境問題を積極的に汲み上げ、農学部と地域社会との交流窓口として情報の収集・管理・発信を行っています。また、農学部教育に関する事項について、フィールド科学教育研究センターと佐渡自然共生科学センター演習林との連携に取り組んでいます。



FC シンポジウムの開催



五泉市との連携協定の締結

耕地生産担当

【概要】

耕地生産担当には村松ステーションと新通ステーションの2つのステーションがあり、それぞれ五泉市(旧村松町、新潟大学から45km)、新潟市西区新通(新潟大学から3km)に所在しています。村松ステーションは16haの圃場を有し、食用作物(ダイズ、ジャガイモ)、野菜類(スイカ、エダマメ、ダイコン、サツマイモ)および牧草を作付け、乳牛やヤギを飼育しています。新通ステーションは2.7haの圃場を有し、水稻を中心に作付けし、転作作物としてタマネギ、エダマメ、ソラマメ、トマト、ナスなどの野菜を栽培しています。一部は施設栽培を行なっています。また、春季には草花やハーブの苗生産も行っています。



村松ステーションでの実習風景



農業用ドローンの利用・搾乳



スマート農業への取り組み
(土壌センサー搭載型可変施肥田植機)



新通ステーションでの稲刈り実習風景

【教育・研究】

基礎的な農作業体験を目的として、農学部全学生の必修である「基礎農林学実習」を両ステーションで開講しています。また、植物生産学・動物生産学・農業機械学等を専攻する学生の専門的な実習も開講しています。耕地生産担当では、播種から収穫まで、また出産から牛乳生産までの農業生産の全過程を対象にして、環境負荷の少ない持続的農業に関する研究を行っています。村松ステーションでは、農業機械利用による省力生産技術、耕種と畜産での資源循環、資源循環型酪農における乳牛の生産性および繁殖成績について研究しています。新通ステーションでは、水稻の遺伝育種や肥培管理、環境に配慮した野菜栽培技術について研究しています。2022年度より、デジタル技術を活用した先進的な農業機器を導入しスマート農業が目指す新たな農業の実現といった、農業DX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みを本格化しています。

【地域連携・社会貢献】

村松ステーションでは、五泉市と連携して、地域中学校の農場実習や児童・園児の農場見学などを受入れているほか、学校給食用野菜を提供しています。新通ステーションでは、園児の農業体験を毎年で開催しています。また、新潟大学自然科学研究科大学院教育のプロジェクトとの一環として、地域の酒造会社と連携し、農場で栽培した酒米を用いた大学ブランドの日本酒「新雪物語」を造っています。他に、生産物の販売を通して地域との交流を行っています。

入試情報

【募集人員】

学部	学科	入学定員	募集人員				
			一般選抜		学校推薦型選抜	帰国生徒	社会人
			前期日程	後期日程			
農学部	農学科	175人	111人	30人	34人	若干人	-

【募集方法】

一般選抜では、農学科で一括して募集します。学位プログラムは、2年次進級時に決定します。

学校推薦型選抜Ⅰ型では、学位プログラムごとに募集し、合格者を決定します。フィールド科学人材育成プログラムの募集は行いません。

学校推薦型選抜Ⅱ型では、農学科で一括して募集します。学位プログラムは2年次進級時に決定します。

学科	学位プログラム	募集人員			
		前期日程	後期日程	学校推薦型選抜	
				Ⅰ型	Ⅱ型
農学科	応用生命科学	111人	30人	2人	21人
	食品科学			2人	
	生物資源科学			5人	
	流域環境学			4人	
	フィールド科学人材育成			-	

【一般選抜】

区分	大学入学共通テストの利用教科・科目			区分	個別学力検査		
	教科	科目名等			教科等	科目名等	
前期・後期	【国】	国語	必須	前期	【数】	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C	【数】【理】 から2
	【数】	「数Ⅰ、数A」 「数Ⅱ、数B、数C」	必須		【理】	物基・物、化基・化、生基・生、地基・地学から1又は2	
	【理】	物理、化学、生物、地学	左記から2		後期	【外】	英（英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ・論理・表現Ⅰ～Ⅲ）
	【外】	英、独、仏、中、韓	左記から1	【その他】		面接	必須
	【地歴・公民】※1	「地総、地探」、「歴総、日探」、 「歴総、世探」、「地総、歴総、公」、 「公、倫」、「公、政・経」	左記から1				
	【情】	情報Ⅰ	必須				
	〔6教科8科目〕						

※1 「地理総合、歴史総合、公共」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」「歴史総合」、「公共」）のうち、2つを選択解答すること。

※1「地理総合、歴史総合、公共」を選択する場合は、3つの出題範囲(「地理総合」、「歴史総合」、「公共」)のうち、2つを選択解答すること。

【学校推薦型選抜】

1. 募集・選抜方法及び配点 学校推薦型選抜Ⅰ型では、学位プログラムごとに募集します。フィールド科学人材育成プログラムの募集は行いません。学校推薦型選抜Ⅱ型では、農学科で一括して募集します。学位プログラムは2年次進級時に決定します。

学科名		学位プログラム	募集人員	大学入学共通テスト		本学が実施する試験				合計
				教科	科目	配点	小論文	面接	書類審査	
農学科	Ⅰ型	応用生命科学	2	-	課さない	-	50	30	20	100
		食品科学	2							
		生物資源科学	5							
		流域環境学	4							
	Ⅱ型	応用生命科学	21	【数】	「数Ⅰ、数A」「数Ⅱ、数B、数C」から1	200	-	120	80	800
		食品科学		【情】	情報Ⅰ					
		生物資源科学		【理】	物理、化学、生物、地学					
		流域環境学		【外】	英語	200				
		フィールド科学人材育成			必須	200				

2. 出願要件

学科名		学位プログラム	高等学校の範囲等	概ねの募集人員
農学科	Ⅰ型	応用生命科学	農業、工業、水産及び家庭に関する学科並びに総合学科(注1、2)	2人
		食品科学	農業、水産及び家庭に関する学科並びに総合学科(注1、3)	2人
		生物資源科学	農業に関する学科及び総合学科(注4)	5人
		流域環境学	農業及び工業に関する学科並びに総合学科(注5)	4人
	Ⅱ型	農学科一括	高等学校の普通科等	21人
		応用生命科学		
		食品科学		
		生物資源科学		
		流域環境学		
		フィールド科学人材育成		

(注1) 家庭に関する学科は、食物に関する教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。

(注2) 総合学科は、農業、工業、水産又は食物に関する教科・科目をいずれか20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。

(注3) 総合学科は、農業、水産又は食物に関する教科・科目をいずれか20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。

(注4) 総合学科は、農業に関する教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。

(注5) 総合学科は、農業及び工業に関する教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む。)した者を対象とします。